

人生のテンキに。



特集

- 15 周年のキセキ
- 新入スタッフインタビュー

認定NPO法人 **Homedoor**
2024 年度 年次報告書



川口 加奈 認定NPO法人Homedoor 理事長

14歳でホームレス問題に出会い、ホームレス襲撃事件の根絶をめざし、炊出しや講演活動を開始。17歳の時に路上死を防ぎたいという思いで描いた1枚の絵をもとに、19歳でHomedoorを設立。大阪市立大学卒業。1991年大阪府高石市生まれ。

“ひとりになってもやり切る。その覚悟が支えた15年。”

大学2年生の時、「14歳からホームレス支援をしている」という経歴を聞きつけた友人から団体設立を持ちかけられ、半ば強引に代表に就任しました。案の定、友人は途中でいなくなり、私はやめるにやめられず、就活のタイミングも失い、そのまま活動を続けることに。リーダーシップの素質も覚悟もないままに始めたため、最初の2年間はうまくいかず、まさに暗黒期(笑)。しかし、「働きたいんや」と語ったあるおっちゃんとの出会いをきっかけに、「ひとりになってもやり切る」と腹をくくりました。それからは、何があっても前に進むのみ。当事者のニーズに寄り添い、本当に必要なことだけを追求すると、自然と仲間や応援してくださる方々が集まり、相談件数も年間1,000件を超えるように。気づけば活動は15年、スタッフも20名近くになりました。これからも「絶対にやり切る」という覚悟を忘れず、一人ひとりの声を大切にしながら、歩みを進めてまいります。



これからの
Homedoor も
ますます応援して
ください！

2025

物価高の影響で寄付は減収、宿泊希望者は増加となり、財務が厳しい状況に…そこで、15 周年記念クラウドファンディングを実施し、1031 名から 3200 万円を超えるご寄付をいただきました！多くの方に支えられた 15 年間だったと実感しました。

2024

アンドベースは開設早々に満床が続く中、大阪市長・大阪府知事がそろって視察にいらっしゃり、その様子がメディアにも多数取り上げられました！

1マス進む



2023

5 億円（内 3 億円は融資）で元ホテル物件を購入し、念願の長期滞在型の宿泊施設『アンドベース』をオープン！インクルーシブシェルターとして 24 部屋の個室を用意できました。



ホームレスの人々に
インスタントカメラを渡し、
写真集『アイム』を出版。



2021

月間 200 食を無料で提供するカフェ『おかえりキッチン』をオープン！普通のカフェとして営業しつつ、就労支援の場として活用しています。また、アンドセンター等から引っ越した方に『おかえりチケット』という無料ランチ券を配布し、再び立ち寄ってもらえるきっかけをつくっています。

1マス進む



2022

コロナの影響で新規相談者数が 800 人以上となる状況が続く、アンドセンターも満床が常態化。不足分はホテルを宿泊手配し、現場も財布も逼迫。

1回休み



プロフェッショナル仕事の流儀
に出演！

2020

川口の初著となる『14 歳で "おっちゃん" と出会ってから、15 年考えつづけてやっと見つけた「働く意味」』を出版しました。また、コロナの影響で相談者が急増し、初めて 1,000 人を超える相談を受けました。一方で、シェアサイクルニーズの高まりで、HUBchari 事業の収益が増加しました。



2019

アンドセンターでの宿泊ニーズが非常に高く、相談者数は例年の約 2 倍に増加！相談者像が変化し始め、平均年齢は 4.8 歳若くなり、ネット検索をきっかけに来る人が全体の 7 割近くを占めるようになりました。こうした変化に対応するため、相談体制の強化が急務となりました。

1回休み

誰もが何度でもやり直せる社会へ…

もがき苦しみ、それでも一歩ずつ進み続けた

15周年のキヤキ

団体名もない、事業もお金も伝手もない。何もないところから、当事者にニーズをヒアリングし続け、事業を構想しては失敗し、もう一度やり直す。それをただひたすらに繰り返してきた 15 年間でした。これからも、「Homedoor があってよかった」と思ってもらえるよう、歩みを止めず進んでいきます。

START!!

2010.04.25

14 歳からホームレス問題に取り組む川口を中心に任意団体を設立。駅のプラットフォームにある転落防止柵『ホームドア』のように人生からの転落防止柵になりたい。居場所となるホームに入るドアになりたい。ダブルミーニングで団体名を決めました。

Homedoor



2011

ホームレスの人々の 7 割が自転車修理が得意なことに着目しシェアサイクル事業を検討する日々。しかし、就活があるからと仲間が次々と去って、川口 1 人に。

2012

300 社に飛び込み営業をした結果、ようやく 1 ポートが開設決定！シェアサイクル『HUBchari』スタート！

1マス進む

ふりだしに戻る



2013

夜回り活動を大阪市北区でスタート。当事者であるホームレスの人が一緒にコースを開拓してくれました。



迷子続出により
幻の企画となった
天王寺動物園への遠足

2014

HUBchari 以外にも就労の場を作ろうと駐輪管理業務を受託するように。事務所のあったオフィスビルがホームレスの人々であふれ、大家に怒られる。

1回休み

2015

生活応援施設『ホット&ハウス』を開設。念願のキッチンや洗濯機、団らんスペースをホームレスの人々に無料開放できるように！

1マス進む



2016

相談者が少しずつ増える中で、住まいの支援の必要性を感じ、ホームレスの人々のシェアハウス『ホームハウス』をスタート。表札は『川口』でした。

2017

人間力大賞、内閣総理大臣賞等様々な賞を受賞しました。また、認定 NPO 法人になり、寄付者の皆さまに税制控除を受けていただけるように！



モシベルさまの
コロナグッズを身につけて
伊吹山登山

2018

代表・川口の高校生からの夢であった宿泊施設『アンドセンター』が完成！毎月のランニングコスト 100 万円をまかなうために、サポーター 1000 人キャンペーンを開始。相談から 2 週間無料で宿泊できる 18 部屋の個室や相談室、団らんスペース等を用意できました。

1マス進む



6 伝える

『誤解と偏見』を
『関心と理解』に変える。

実施内容

講演会等での啓発活動に加え、「ホムドゼミ」という研究チームを独自につくり、相談データをベースにした調査研究事業を行っています。

受賞回数

<主な受賞歴>
・日本青年会議所主催「人間力大賞」
・「内閣総理大臣奨励賞」など

のべ25回

メディア出演回数

<主な出演メディア>
・NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」
・フジテレビ「セブンルール」など

テレビ 新聞
のべ47回 のべ60回

P18

5 再出発に寄り添う

困ったら相談できるという
安心感をつくりだす。

実施内容

- ・引っ越しサポート
家を借りてから収入が安定するまで、家電の貸出や食料の提供をしています。2018年のアンドセンター開設以来、のべ1,603人の方をサポートしてきました。
- ・卒業生フォロー
-LINE グループ運営
季節イベントや就労プログラムを案内しています。
- 誰でもスマホ
携帯電話が契約できない通信困窮者向けの携帯会社の代理店業務を行い、就労支援の第一歩を支えます。
- おかえりチケット
スタンプラリー方式でおかえりキッチン
の食事が食べられる無料チケットを配布することで、卒業後の来所機会を増やし、定期面談の実施につなげています。

P17

4 働くを支える

路上からでも働ける
仕事を作る

実施内容

- ・仕事の提供
以下の仕事を中心に、年間70名ほどの雇用を創出しています。
-シェアサイクル『HUBchari』
トラック運転やバッテリー交換業務等
-カフェ『おかえりキッチン』
接客や調理、清掃業務
-民間企業から受託した業務
駐輪場管理、マンション管理、清掃等
- ・就労移行
アンドセンターやアンドベースに宿泊中で就労希望の方には、就労支援員が仕事探しをお手伝い。本人の特性に合った求人を開拓し、就職後も面談を重ねながら、継続してサポートしています。

P15

Homedoor 6 challenges

6つのチャレンジで、人生の再出発をサポートする。

Homedoorでは、『6つのチャレンジ』を通じて、ホームレスの人々の路上脱出をサポートしています。どんな支援が必要とされ、かつ効果があるのか。改善点を毎年洗い出し、真に必要なサポートを生み出す。その挑戦を『6つのチャレンジ』と表現し、全国で導入できるホームレス支援のモデルケースとなることが目標です。

3 暮らしを支える

「ここにいて、いいんだ。」
ほっと"安堵"できる場所へ。

実施内容

- ・居場所づくり
アンドセンターの団らんスペースを平日開放しています。衣料品や日用品の提供に加え、シャワーや洗濯機、ホムド文庫、パソコンの利用も可能です。
- ・食事の提供
カフェ『おかえりキッチン』で相談者や宿泊者に毎月200食、無料のまかないランチを提供しています。開店から4年間でのべ7,621食を提供しました。他にも、企業さまや個人の方からご寄付いただいた食料の配布を行っています。

P13

2 選択肢を広げる

相談者に寄り添い
多種多様な選択肢を模索する。

実施内容

- ・相談対応
専門の相談員が丁寧に状況をヒアリング。他機関と連携し、公的な支援制度を含め、多様な選択肢を提示します。
- ・宿泊施設の運営
次のステップに進むまでの間の宿泊場所を提供しながら、就労や生活をサポートします。
アンドセンター：個室18部屋
アンドベース：個室24部屋

P09

1 届ける

誰もがやり直せる。
そんな情報を届けるための
幅広いアウトリーチ。

実施内容

- ・夜回り活動（毎月第2火曜日）
- ・ポスター掲示（ネットカフェやコンビニ等）
- ・ウェブ広告の活用
- ・他団体との連携

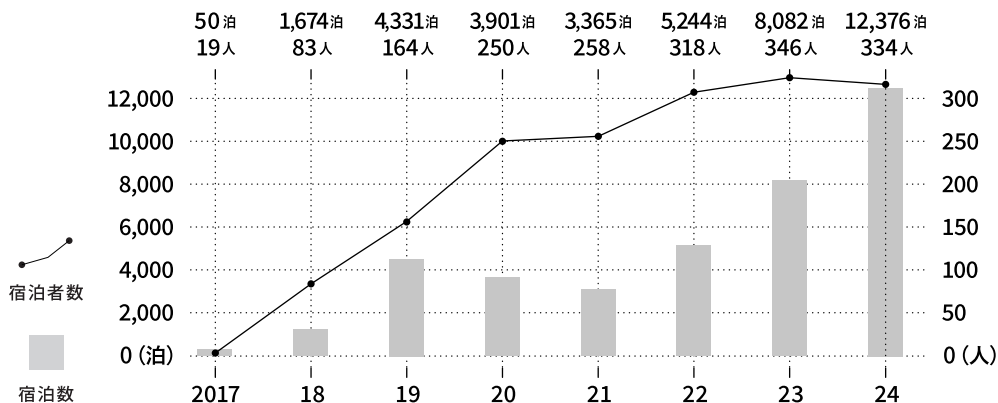
P07

年間宿泊数・宿泊者数の推移

のべ1,772人

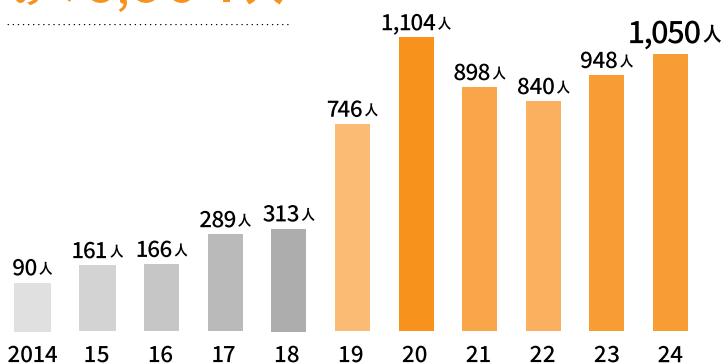
39,023泊

宿泊者数および泊数はアンドセンターとアンドベース、臨時のホテル手配より算出しています。



新規相談者数の推移

のべ6,604人



2010年度～2024年度の統計

夜回りで出会った人数

のべ13,324人

夜回りボランティア参加人数

のべ1,665人

うち、当事者ボランティア 598人

15年をふりかえる！

届けるのテンキ

2013

ホームレスの“おっちゃん”と
コース開拓！
HUBchari 事業も落ち着いてきたので、夜回りを大阪市北区で開始できないかと考え、当事者に相談しながら、夜回り活動を始めました。



2014

ネットカフェとの連携
幅広くアウトリーチをするため、ネットカフェ会社と連携し、店舗内で広告を出すように。



2017

ストカン実施
深夜帯のホームレスの人々の状況を正確に把握するため、大阪ストリートカウントを実施。



2020

ピンチはチャンス！
『てつたろう』とコラボ
コロナの影響でお弁当を自分たちで作るのは難しくなっていたところ、近所の海鮮居酒屋『てつたろう』さんからお弁当を無料で提供いただけるように！



2025

これからも当事者とともに…
夜回り参加者の2割近くを元当事者が占めるなど、当事者目線でのアウトリーチを大切にしています。これからも時代の変化に柔軟に対応していきます。



データでみる2024年度のアウトリーチ

無料インターネット電話からの相談件数

69件

夜回りで出会ったのべ人数

740人

夜回り参加のボランティアのべ人数

143人

※ホームレス状態から脱出した元当事者のボランティア 27人を含んでいます

ご支援くださる企業さまをはじめ、多様な方に夜回り活動の現場に足を運んでいただきました。



無料インターネット電話が定着
2023年度から導入したインターネット電話は、Homedoorのウェブサイトでワンクリックで相談員に電話をかけられる仕組みです。携帯電話の契約が切れてしまった遠方の相談者とも通話ができることで、相談者の状況を詳しく把握し、迅速に適切な支援情報を届けられるようになりました。
ある相談者は「電話が止まり、相談すらできないのかと途方に暮れていたのがインターネット電話はとても助かりました」と語ってくれました。導入した2023年度は29件の利用でしたが、2024年度はその倍以上（69件）の利用がありました。ネットカフェなどを転々とするホームレスの人々への新たなアウトリーチとして手応えを感じています。

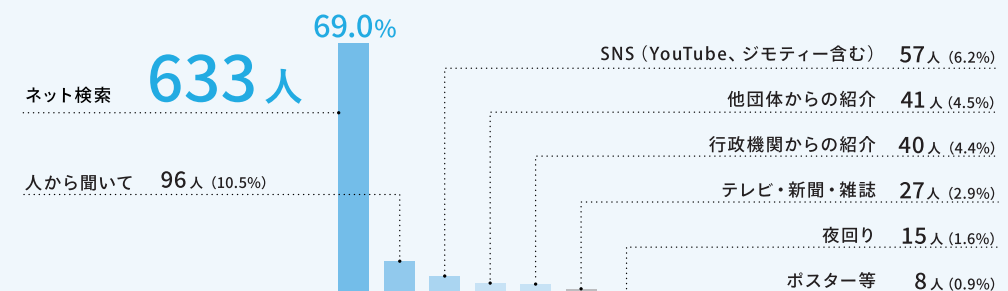


Voice - スタッフの声

相談者が若年化するなかで、SNSなどのオンラインツールが当事者にとっての重要な情報源になっているように感じています。Homedoorも連携している他団体からは、『生成AIに支援団体を紹介してもらった』という声が増えている」と聞きました。貧困・ホームレス問題は年々多様化・複雑化しているため、アウトリーチの手法も模索し続けたいと思います。

永井 悠大 / 相談部門長

データでみる2024年度の活動成果 …… Homedoorを知ったきっかけ N=917



Challenge

届ける



路上生活者は年々減少傾向にある一方で、深夜営業店舗などを転々とする『見えにくいホームレス』の人たちからの相談が中心になります。変化する相談者層に柔軟に対応するため、多様な方法でのアウトリーチを行っています。



栄養満点で美味しい！



夜回り



店頭ポスター



ウェブ広告
バナー

15年をふりかえる！

選択肢を広げる のテンキ

2014

相談事業開始！
夜回りで出会った人々への相談支援を開始。初年度の新規相談者数は90人でした。



2016

ホームハウス開始
相談者が次のステップに移るまでの間、滞在できる4室を準備。



2018

アンドセンター開設
ビル1棟を借り上げ
18部屋の個室宿泊施設をスタート。



2023

アンドベース開設
宿泊ニーズの高さに応え、アンドセンターに加えてもう1棟の宿泊施設を開始。元ホテルの物件を購入し、長期滞在可能な24部屋の個室での支援を始めました。



2025

現場の声を大切に…
全国的にも珍しい民設民営の宿泊施設を2棟運営し、多様化する相談者に対応できるように支援の選択肢を広げ、政策提言につなげていきます。



データでみる2024年度の来所対応

来所相談者数と面談回数（新規のみ）

316人 / 2,247回

アンドセンター（短期滞在施設）宿泊者数

284人 / 4,724泊

アンドベース（長期滞在施設）宿泊者数

42人 / 7,652泊



アンドセンター、アンドベースともに各部屋ユニットバス付きです



アンドベースは長期滞在用に家具や家電を全部屋に揃えています



アンドベースは女性専用フロアを設置し、キッズスペースもあります



アンドベースが本格稼働！
長期滞在（半年〜2年）が可能な新シェルター『アンドベース』が2年目に入りました。アンドセンターよりも居室が広く設備面が充実したことで、従来対応が難しかったひとり親家庭やカップルも受け入れることができました。また、専門の心理カウンセラーを新たに採用したことで、被虐待経験などのトラウマに悩む若者にカウンセリングを継続的に実施できるようになりました。居住支援や生活面の支援に加え心理的なケアが可能となったことで、他機関との連携もよりスムーズになり、引越し後の支援体制も整えやすくなっています。利用者からも「これまで誰にも話せなかったことをじっくり聞いてもらえて安心してできました」と好評でした。

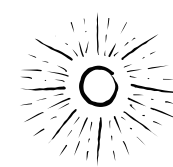


Voice - スタッフの声

アンドベースというこれまでとは異なる長期支援のあり方に、試行錯誤した1年でした。利用者の生活に寄り添いながら、その変化を見守りつつ、希望に応じたプログラムを実施し、利用者の声をベースに選択肢を広げています。一方で、アンドセンターも満床が続く必要の高さは変わっていません。相談者にとってより望ましい選択肢ができるよう、引き続き尽力します。

浦越 有希/ アンドセンター施設長

Challenge



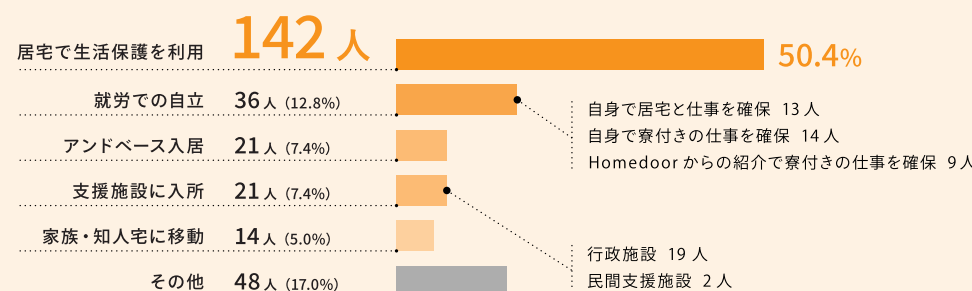
選択肢を広げる

家族からの暴力など、安心できる生活の経験が少ない相談者は、働いて自立する以外の選択肢を知らないことも。まずは不安を受け止め、公的制度や民間団体の取り組みを丁寧に紹介し、それぞれにあった選択肢を相談者と一緒に探っています。

アンドベースの暮らしスペース



データでみる2024年度の活動成果 …… アンドセンター宿泊後の経過 N=282



初回相談

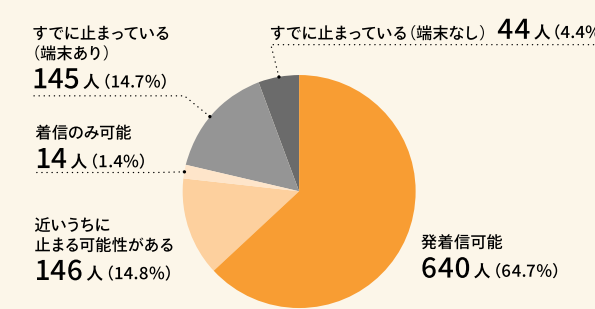


宿泊施設の運営



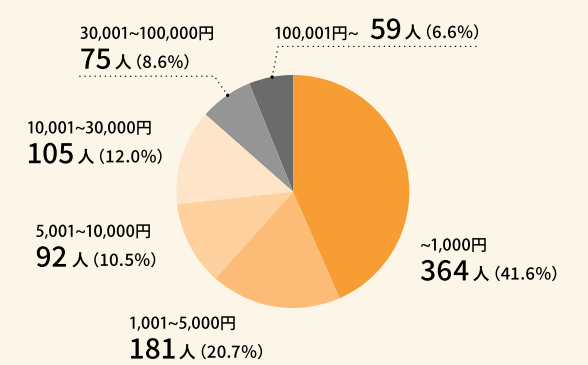
他機関との連携

携帯電話の状況 N=989



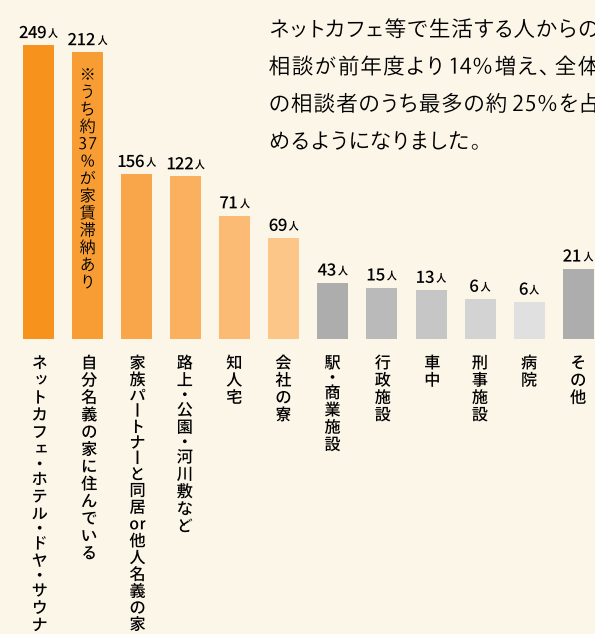
年々、発着信可能な携帯電話を所持している人の割合が増えています。

所持金 N=876



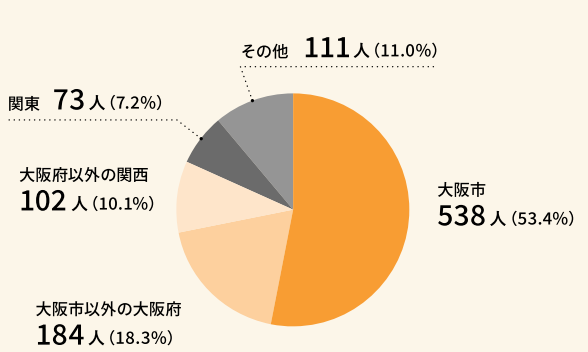
所持金が10円以下の人が103人、11円～500円の人が179人いらっしゃいました。

相談時の起居の場 N=983



ネットカフェ等で生活する人からの相談が前年度より14%増え、全体の相談者のうち最多の約25%を占めるようになりました。

相談時の居所 N=1,008



活動拠点である大阪市内からの相談が半数以上を占めつつ、42の都道府県から相談がありました。遠方の相談には、現地にある支援機関の情報提供に努めています

情報提供・本人以外からの相談数 (相談元)

167件

「寝る場所がない」等の理由で、Homedoorに相談者をつなぎたいという相談が、全体の約54%を占めました。

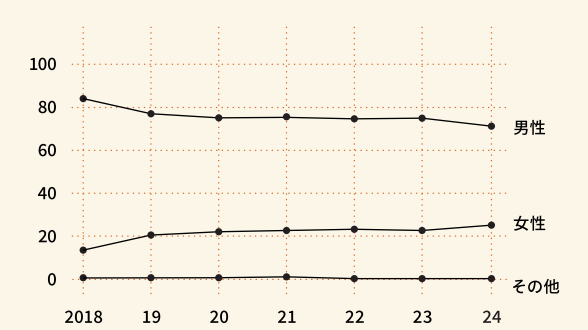
相談元	人数
民間支援団体 (弁護士・社協含む)	44人
市民	43人
行政 (警察・委託先機関含む)	26人
知人	26人
親族・パートナー	12人
企業・不動産関係者	9人
医療機関	7人

データでみるHomedoor
相談者の状況について

近年ますます複雑化するホームレス問題は、相談者の若年化や女性の割合増にも表れています。
2024年度は新規相談件数がコロナ禍以来4年ぶりに1000件を超え、物価高などを背景とした貧困の広がりにも危機感を抱いています。

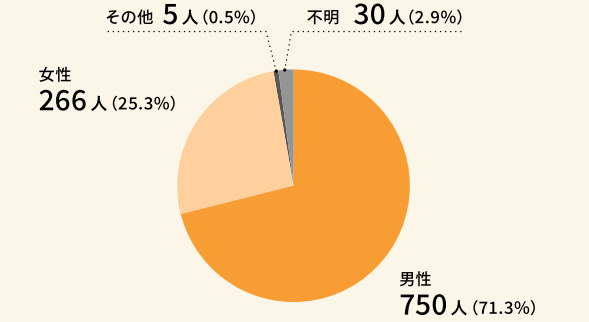


性別割合の推移



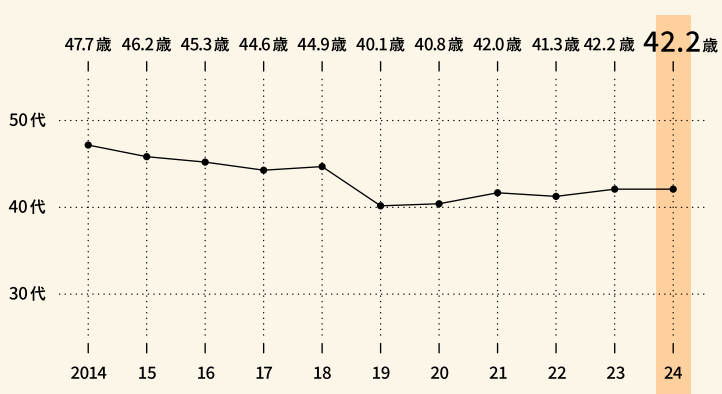
女性の相談者が年々少しずつ増え、2024年度はついに全体の25%を超えました。

性別 N=1,051



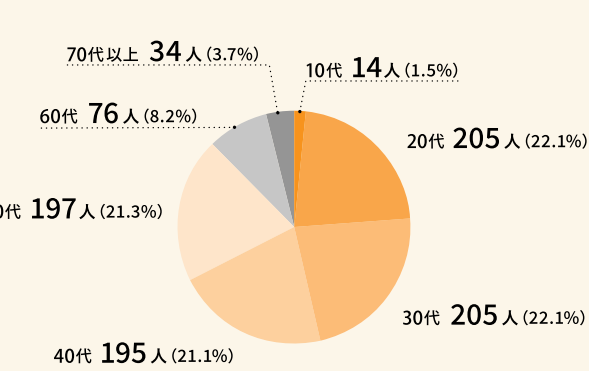
毎年、相談者の約4人に1人が女性となっています。

年代割合の推移



アンドセンターが開所した2018年度以降、相談者の若年化が少しずつ進んでいます。

年代の割合 N=926



18歳から最年長は92歳まで、幅広い相談者に対応しているのがHomedoorの特徴です。2024年度は20～50代の方からの相談が満遍なくありました。

15年をふりかえる！

暮らしを支える のテンキ

2015

ホット&ハウス開始！

バイク工場の跡地を借りて、生活
応援施設を開始。団らんスパー
スを設置し、衣服等の生活物資
や食事の提供を始めました。



2018

団らんスペース拡充

アンドセンターに引っ越し、念願のシャ
ワールームや仮眠室、パソコンスペース
やホムド文庫なども提供できるように。
餅つき大会や流しそうめんなど季節の
イベントも開催しています。

2021

おかえりキッチン開店！

念願の飲食店をオープン。一般
のお客さまも利用できるカフェな
がら、毎月約200食を無料で提
供できるように。就労支援の場と
しても活用しています。

2025

企業・地域連携の推進

地域のフリマショップと連携した衣
服提供や、企業と連携したクリスマ
スプレゼントの提供を始めていま
す。多様な生活課題に対応するた
め、個別支援の強化を推進してい
きます！



データでみる2024年度のおかえりキッチン

宿泊者への無料ランチ提供数

2,262 食

おかえりチケット配布数

177 枚

※おかえりチケット
アンドセンター・アンドベース利用
者に渡している、退去後に無料で食事や
ドリンクを楽しめるチケットです。

おかえりキッチン売上

約 399 万円

※一般のお客さま向けにも営業を行
い、その収益を無料で食事提供のため
の費用に充てています。



宿泊者には、朝食のおにぎり、
昼食のまかない、夕食のお弁当を
提供しています。



野菜もすくすく成長中！

クラブ活動、続々発足
アンドベースの屋上で野菜を育てる
『菜園部』、河川敷でキャッチボール
やノックを楽しむ『キャッチボール
部』、カードやボードゲームで交流す
る『ゲーム部』など、趣味の幅を広げ、
日々の暮らしを豊かにする活動を定
例で実施しました。ゲーム部の参加
者からは、「人と関わるのは苦手意識
がありますが、ゲームで楽しみな
がらだと自然と会話ができました」と
いう感想をいただきました。

Voice - スタッフの声

おかえりキッチンは開店から4年が経ちました。就
労支援の雇用枠を広げるため、体制の整備にも力を
入れてきました。また、一般のお客さまへの営業と並
行しながら、アンドセンターの宿泊者向けに毎日3
食のごはんも用意しています。卒業生が毎日のよう
に立ち寄り、店内は笑顔あふれる、にぎやかなカ
フェになっています。

山本 幸恵 / おかえりキッチン店長

アンドフェス、大盛況！
Homedoorを経由し新生活を
始められた相談者や、ホームレスの
人々、様々な状況にある人々にとっ
て日常の彩りになることを願い、『ア
ンドフェス』を開催しています。クリ
スマスにはホットケーキ&たこ焼き
パーティー、3月にはクレープ作り
&カードゲーム大会を催し、近況報
告も兼ねてたくさんの方にご参加い
ただき大盛況でした。



どんな状況の人でも安堵できる居場所を目指して、団らんスペースの開所や食料・
衣料の提供、シャワールームや洗濯機を設置しています。ホームレスの人々、アン
ドセンター宿泊者、元相談者など様々な状況の人たちが集います。

データでみる2024年度の活動成果 …… アンドセンターおよび各設備の利用状況

団らんスペース利用者と受付スタッ
フが談笑する様子



年間利用者数

2,181 人



シャワー利用者数

246 人



洗濯機利用者数

569 人



居場所づくり



健康サポート



食事の提供

Challenge

暮らしを支える



15年をふりかえる！

働くを支える のテンキ

2012

HUBchari事業スタート

ホームレスの人々の7割が自転車修理を得意とすることに着目し、シェアサイクル事業をスタート。しかし最初は1拠点しかなく、お客様も来ず、苦戦しました。



2013

業務委託での仕事づくり

働きたいというニーズに応えるべく、企業や行政との連携で、駐輪場管理業務をスタート。後に、清掃業務やマンション業務も受託できるようになり、職種が拡大しました。



2016

有料職業紹介の資格取得

就労支援を受けたい人々を企業に紹介できるよう、事業者として資格を取得しました。当事者に寄り添った仕事紹介ができるよう心がけています。



2025

安心して働ける場を地域に

今後も『HUBchari』や『おかえりキッチン』を中心に、挑戦と失敗を受け入れられる安心の就労環境を広げていき、自分らしく働ける場を今後も増やしていきます。



データでみる2024年度のHUBchari

バッテリー交換隊による交換本数

17,091本

お支払い給与総額

約1,229万円

HUBchari ポート数

629ポート

※システム提供いただいているドコモ・バイクシェアポートを含んだ数になります

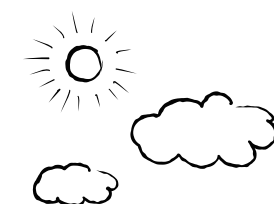


万博にポート出現！



Challenge

働くを支える



就労支援の枠組み拡大！

相談者への食事提供と合わせて、一般の方向けに営業している『おかえりキッチン』ですが、就労支援の機会の場としても本格的に取り組みを開始しました。開店準備から血洗い、接客、バリスタ業務まで幅広い仕事を担当していただいています。

また『HUBchari』の利用者もさらに増え、大阪・関西万博にもポートを開設することができました。観光や日常の移動手段として定着しつつありますが、その運営は就労支援を受けながら働く方々によって支えられています。

職種多様化と丁寧なマッチング

就労支援を受けた人々と企業をマッチングできるよう、紹介先の開拓に尽力し、新規で5件の紹介先が増えました。少しでも相談者が希望する職種や職場を紹介できるように、様々な企業との連携を広げています。また単に紹介数を増やすだけではなく、企業側と条件や詳細を確認しながら、ミスマッチが起きないようにも心掛けています。

2トントラックを運転します

Voice - スタッフの声

2024年度は、アンドベースを拠点に生育格差を抱える若者の就労支援に力を入れてきましたが、働き続けることの難しさを改めて感じています。生きづらさを抱えながら一歩踏み出そうとする相談者には、安心して何度でもやり直せる、継続的な支援が欠かせません。『おかえりキッチン』などHomedoorが直接雇用し行う就労支援も、そうした取り組みの一環です。これからも、失敗しても受け止めてもらえる『安心して失敗できる場』を創出していきます。

岡村 匠海 / HUBchari事業担当

データでみる2024年度の活動成果 …… 仕事につなげる施策の状況



有料職業紹介契約企業(新規)

5件(累計10件)



求人件数(新規)

7件(累計112件)



仕事提供者数(新規)

65人



仕事の提供



就労移行



金銭管理
サポート

伝える

Challenge

貧困・ホームレス問題への社会的な関心は高まってきましたが、いまだに当事者への誤解や偏見は根強いと感じています。講演会や調査・研究、出版事業を通じて理解を広げ、社会を動かす力につなげていきます。



生育格差を伝えるクラファン
新施設『アンドベース』の運営費用を募るため、Homedoor 史上最高額である目標金額3000万円のクラウドファンディングを実施。1000人を超える方にご協力いただき、無事に達成することができました。『生育格差』をキーワードに広報活動を行い、多くのメディアにも取り上げていただくことができ、社会に新しい問題を広く伝える機会となりました。

活動を俯瞰し、社会に伝える
ホームドゼミはHomedoorの活動や公的制度の到達点と課題について、学術的な視点から整理し学会報告や成果物としてまとめるプロジェクトです。2024年度は新たに外部有識者を迎え、主にアンドベースの意義について議論を重ねました。

Voice - スタッフの声

大人の貧困問題は、子どもの貧困問題と比べて直感的な理解や支援を得られにくいテーマであり、その背景や社会構造を伝えていく必要があります。既に応援いただけてくださる皆さまに心から感謝をしつつ、より多くの方に見えない貧困が増えている現状やHomedoorの活動を伝えてまいります！

谷野 ちひろ / 広報部門長



Voice - スタッフの声

アンドベースで相談者と長期に渡り関わる中で、些細なつまずきもフォローが少しでもあれば大きく崩れることなく、自分のやりたいことに挑戦していく姿を目の当たりにしてきました。その経験を活かし、アンドセンターやアンドベースからの引越後も、同様のフォローを継続していけたらと考えています。

荻野 直基 / アンドベース施設長



Challenge

再出発に寄り添う



Amazonのウィッシュリストから新生活応援キットのご寄付をお待ちしております！



ウィッシュリストはこちら！

『誰でもスマホ』、本格稼働！

過去に携帯電話料金を滞納したこと、大手携帯会社では再契約が難しい通信困窮者の方でも契約可能な『誰でもスマホ』。株式会社アラリンクさまが運営されており、2024年度よりHomedoorが支店になりました。必要書類と初期費用があれば、その日にその場で携帯電話が使えるようになるため、アンドセンターやアンドベースに宿泊している相談者の居宅確保や就労先の選択肢が広がります。さらに、携帯がある状態で引越しできるようになり、引越後のフォローも行いやすくなりました。また、行政や支援機関からの紹介で来られるお客様や、一般のお客様が生活相談につながることもあり、新たな連携やアウトリーチとしても重要な事業になりつつあります。



データで見る 2024 年度の活動成果 …… 広報活動の実施状況



講演会の様子



講演開催件数

39回



メディア出演回数 (WEB・新聞・雑誌・テレビ・ラジオ)

15回

講演 & ワークショップ

ホームドゼミ (調査・研究)

出版

データで見る 2024 年度の活動成果 …… 生活基盤を整える施策の状況



誰でもスマホの説明の様子



新生活応援キットの提供数

147回



誰でもスマホ契約件数

126件

引っ越しサポート

就労定着

卒業生フォロー

Oneday Schedule

相談員

橋折さんのとある1日

	10:00 出勤・掃除・朝礼・スケジュール確認
	11:00 市役所へ生活保護申請同行
	12:00 メールでの相談対応（2～3件）
	13:00 おかえりキッチンでランチ
	14:00 電話での相談対応（2～3件）
	15:00 新規相談者の面談
	16:00 アンドセンターの宿泊案内
	17:00 宿泊者との面談
	18:00 相談対応記録の作成
	19:00 退勤



電話での相談対応の様子

1ヶ月の相談件数は100件を超えることも。安心してご相談いただけるよう、一人ひとり丁寧にヒアリングをしています。

HUBchari
営業担当

中口さんのとある1日

	10:00 出勤・掃除・朝礼・スケジュール確認
	11:00 営業アポイント電話
	12:00 おかえりキッチンでランチ
	13:00 現地調査
	14:00 HUBchari 新規ポート開設
	15:00 HUBchari ポート整備
	16:00 上司と打ち合わせ
	17:00 ポートに関する問い合わせ対応
	18:00 提案書・契約書の作成
	19:00 退勤



HUBchari 新規ポート開設の様子

この日は、アンドセンターで宿泊しながら、就労支援を受けている相談者の方と一緒に新規ポート開設作業を行いました。

2024年度入職

スタッフインタビュー！

2024年度に加わった、個性豊かで魅力いっぱいの新メンバーたちをご紹介します！
それぞれの持ち味を活かして、チームに活気を与えています。

元インターン生 & 新卒入社！

相談員

相談 受付

戸田 toda

Q1 Homedoorを選んだ理由
中学時代に聞いた理事長・川口の話が心に残り、福祉を学ぶなら Homedoorでと思い入職を決意しました。

Q2 今の目標は？
安心できる人になる。

受付・事務

寄付対応 宿泊者対応

田辺 tanabe

Q1 Homedoorを選んだ理由
収益を自ら生み出し、柔軟な方法で人を支えている姿に惹かれ、自分もその力になりたいと感じたからです。

Q2 今の目標は？
人間力を高める。

相談員

相談 宿泊者対応

橋折 hashiori

Q1 Homedoorを選んだ理由
制度につながりきらない方々にとって必要な場所だと実感し、相談員として協力したいと思い入職しました。

Q2 今の目標は？
出会いを大切にする。

この年次報告書は川口と私がつくりました！

カウンセラー

カウンセリング

大熊 okuma

Q1 Homedoorを選んだ理由
暮らしを支えるHomedoorの活動は、傷つきのケアにもつながっていて、素敵だと思ったからです。

Q2 今の目標は？
“その人らしさ”を応援。

HUBchari営業

営業 ポート設置

中口 nakaguchi

Q1 Homedoorを選んだ理由
HUBchari事業が複数の社会課題の解決を目指していることに共感し、現場で貢献したいと思い選びました。

Q2 今の目標は？
ポートの新規開拓。

広報・事務

SNS発信 広報物制作

野口 noguchi

Q1 Homedoorを選んだ理由
理事長・川口の著書との出会いをきっかけに、より多くの人にこの活動を広めたいと思い広報部に入職しました。

Q2 今の目標は？
支援者目線での発信。

会計報告 — いただいたご支援を大切に活用しました

活動計算書（14期：2024年4月1日～2025年3月31日）

(単位:円)

				13期	14期	前年度比		
経常収益	受取寄付金	受取寄付金		78,760,106	66,268,467	84%	寄付の減少を受けて、2025 年 1 月から 4 月にクラウドファンディングを実施しました。そのご支援は、2025 年度に計上予定です。	
		資産受贈益		3,295,400	0	-		
	受取助成金	受取助成金・補助金		124,500,392	8,036,663	6%		2023年度は、アンドベースの物件取得や改装のために大口の助成金・補助金がありました。2024年度は、大阪府福祉基金より若年困窮者への支援活動に対して、助成金をいただきました。
		事業収益	事業収益		163,475,812	186,604,814		
	受託事業収益			16,272,332	9,035,472	56%		
	その他収益	受取利息		1,713	44,696	2609%		
		雑収益		-	11,100,000	-		
	経常収益 計		386,305,755	281,090,112	73%			
経常費用	事業費	1. 人件費	スタッフ人件費	63,860,574	62,659,484	98%	社会貢献支援財団「日本財団賞」、岩佐教育文化財団「第6回SDGs 岩佐賞」を受賞した賞金が増収益に含まれます。	
			臨時雇賃金	9,224,418	10,895,864	118%		
	2. その他経費	業務委託費	1,941,873	1,398,879	72%	スタッフを増員しましたが、育児休業を取得するスタッフもいたため人件費は減少しました。		
		印刷製本費	884,083	679,957	77%			
		旅費交通費	1,933,854	1,177,665	61%			
		通信運搬費	1,716,455	1,908,920	111%			
		消耗品費	14,178,614	7,038,713	50%		就労支援用の雇用枠を拡大できたため、お支払いする賞金が増しました。	
		修繕費	1,321,375	608,550	46%	2023 年度はアンドベースを始めるために消耗品費が高まりましたが、2024 年度は落ち着きました。また、宿泊者にお渡しする食料や衣類など、多くの方々からご寄付をいただいたことで、法人の支出を減らすことができました。		
		水道光熱費	4,519,330	6,778,004	150%			
		地代家賃	8,775,600	8,775,600	100%			
		減価償却費	9,570,236	11,592,601	121%			
		租税公課	19,267,400	9,589,550	50%			
		支払手数料	96,540,610	136,875,172	142%	通年でシェルターが稼働したことで、水道光熱費の値上がりにより費用が大幅に増加しました。		
		その他	4,891,686	4,107,885	84%			
		事業費 計		238,626,108	264,086,844	111%	取得した物件（アンドベース）の 1 年分の減価償却費です。	
	管理費	1. 人件費	2,747,716	2,395,050	87%			
		2. その他経費	2,512,608	3,733,393	149%			
		経常費用 計		243,886,432	270,215,287	111%	HUBchari事業の運営費（ドコモ・バイクシェア手数料）が大幅に増加しました。	
	経常外収益				0	0	0.00%	繰越正味財産額には固定資産（購入したアンドベース物件）と物件購入時の固定負債（銀行借入金）が含まれているため資産が大きく見えますが、次年度以降の活動資金として十分な金額ではありません。
	経常外費用				0	0	0.00%	
法人税、住民税及び事業税				1,426,800	70,000	5%		
当期正味財産増減額				140,992,523	10,804,825	8%		
前期繰越正味財産額				270,834,887	411,827,410	152%		
次期繰越正味財産額				411,827,410	422,632,235	103%		

総会で承認を受けた財務諸表を一部金額をまとめて表示しています。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、
特定非営利活動法人Homedoorの活動を正しく示していることを認めます。

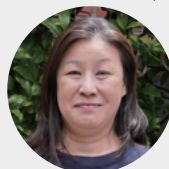


顧問税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子



Homedoor
監事
杉浦 元

皆さまからのあたたかいご寄付や助成金
など活動資金を大切に管理しています。



Homedoor
経理担当
亀井 有子

Homedoorは、多くの企業さまから応援いただいています



その他にも、個人・法人の皆さまから、
あたたかいご支援をお寄せいただきました。
スタッフ一同、心より御礼申し上げます！

一人ひとりが力を発揮できる環境づくりを。

Homedoorの「誰もが何度でもやり直せる社会をつくる」という理念に、深く共感しています。

人口減少が進む日本においては、一人ひとりが力を発揮できる環境づくりが重要で、全員参加で国力を高めていくためにも、誰も取り残さない社会の実現が求められています。個人としてささやかながら支援させていただけることを、心より光栄に思います。

セイノーホールディングス株式会社
代表取締役社長 田口 義隆さん

Homedoorのチャレンジを、寄付で応援してください！



3,000 円/月で

年 15 人が、生活についての
初回相談を受けられます。



5,000 円/月で

年 12 人が、安心して過ごせる場所で
ゆっくり寝泊まりできます。



10,000 円/月で

年 10 人が、就労支援など次の生活に
向けた支援を受けることができます。

サポーター会費を増額する

クレジットカード決済で

月3,000円以上の応援で、相談者が専門の相談員によるカウンセリングを受けたり、Homedoorの宿泊施設に滞在したりすることができますようになります。ぜひ毎月のご寄付の口数UPで、さらなるお力添えをお願いいたします。



サポーター会員になる(継続寄付)

クレジットカード決済で

ウェブサイトからご希望の口数をお選びいただけます。
<https://www.homedoor.org/besupporters/>



口座振替で

お電話もしくはメールにてご一報
いただけましたら、口座振替申込
書を送付させていただきます。

☎ 06-6147-7018
✉ info@homedoor.org

好きな金額で寄付をする(単発寄付)

銀行振込で

右記の口座にお振込ください。お振込後、QR コードのフォー
ムからご住所等の詳細情報のお知らせをお願いいたします。
<https://www.homedoor.org/donatedetail/>



三井住友銀行 梅田支店(127)
口座番号:(普通) 8928985
口座名:特定非営利活動法人Homedoor トクヒ)ホームドア

Homedoorへの寄付は、
寄付金控除の対象で、最大40%が戻ってきます。

住民税と所得税が、税控除の対象に

認定 NPO 法人への寄付には税控除の対象になります。
確定申告で、寄付額の約 40% が所得税と住民税から控除されます。

30,000円を寄付した場合

12,320円が控除されます

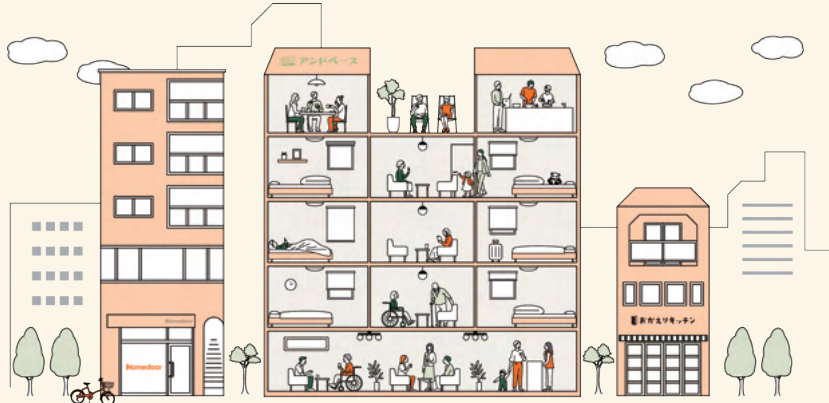
(例) 年間 30,000 円の寄付をした場合、12,320 円が控除になります。

所得税 (30,000 円 -2000 円) ×40%=11,200 円
住民税 (30,000 円 -2000 円) ×4% =1,120 円



困窮状態に陥った多様な層を受け入れる
インクルーシブシェルター『アンドベース』

新施設、
フル稼働中！



● アンドベースとは

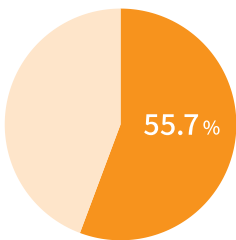
2023 年に誕生した、24 部屋の個室シェルター
『アンドベース』。ここは、生育格差に苦しむ若
者たちをはじめ、長期的な見守り支援が必要
な母子・父子世帯、さらには障害のある方や高
齢者など、多様な背景をもつ人々を受け入れら
れるインクルーシブシェルターです。

● 開設の理由

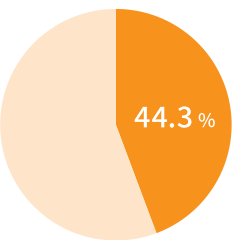
相談に訪れる方々の約半数が **10～30 代の若者**であり、来所アンケートの結果、10～20
代の若年相談者の **83%**が、虐待や親の死別・離婚、生活困窮など、生育環境における社
会的不利を経験していることが明らかになりました。こうした若者が再出発するには、メン
タルケアやキャリア支援を受けながら、安心して暮らせる生活の土台が必要です。そんな
『心と生活の両面を支える場』として開設したのが、『アンドベース』です。

10～20代の相談者の生育歴調査 N=70

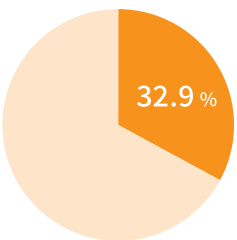
親の離婚



家族を含む同居者からの虐待

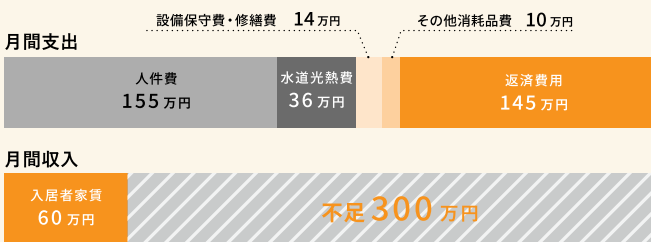


最終学歴が中学校 (高校中退を含む)



● アンドベースの運営費について

Homedoor のシェルターは、公的制度の狭間に陥った人を支援したいと
いう思いから、制度外での支援となり、決まった補助金があるわけではあ
りません。そのため、ご寄付や自主事業収益(シェアサイクル・HUBchari
の売上等)で、アンドベースの返済費用と運営費をまかなう必要がありま
す。しかし現在、毎月の運営費は約 **300 万円**の赤字。安定した支援を続け
ていくには、継続的なご支援が必要です。

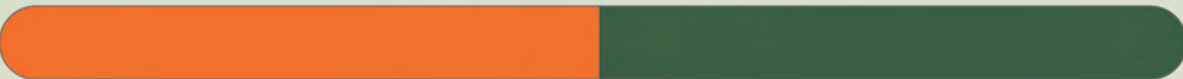


／ アンドベースの運営を支えてくださる、3,000人のサポーターを募集中です！ ／

ようやく折り返し地点に！

サポーター（寄付会員）数

現在 **1,515人** / 目標 **3,000人**



(2025年6月25日時点)



ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人 Homedoor Annual Report 2024 2024年度 年次報告書

所在地 〒531-0074 大阪府大阪市北区本庄東 1-9-14

問い合わせ先 06-6147-7018 / info@homedoor.org

設立 2010年4月(2017年1月 認定NPO法人に認定)

ビジョン ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる

役員 理事長 / 川口 加奈 理事 / 岩田 真吾、松本 浩美、安瀬 聖司 監事 / 杉浦 元

スタッフ 事務局スタッフ 17 名 おかえりキッチンスタッフ 5 名 ボランティア登録者 2,431 名 相談ボランティア 68 名

www.homedoor.org  認定NPO法人Homedoor  @Homudokun  npo_homedoor  homedoor